



▲納涼祭を楽しむ子どもたち

世代交代を進めるために

国や県、市町村では、少子化対策としてもさまざまな取り組みが実施されたり、検討されたりしています。

しかし、私はこの祭りを通じて、私たちでも、こうした状況に対する取り組みができることがわかりました。

それは、我々世代が担っている地域の行事などをなるべく若者に任せ、まちづくり活動への参加を促し、この活動の面白さ、大切さを実感できる場をつくるとともに、若者たちが、まちのためにしてみたいことを何も言わず、ただ、見守るという取り組みです。つまり、世代交代を進めるということです。

具体的な取り組みとしては、我々の世代が、男女問わず若者の住んでいる家に直接訪問するなどし、まちづくり活動の大切さを納得してもらうまで伝え、場合によっては、何度も家に行き、話をするのが解決策の一つだと考えます。事実、安原集落では、時間をかけてこれを行い、なんとか世代交代を達成することができました。

集落に若者がいない場合も

また、集落によっては、そもそも若者がいない、あるいは、そうは言っても集落の行事等に出てこないという現実があることも承知しています。

この場合については、これまでのように単一集落で地域の課題等を解決するという概念にとらわれず、近隣集落と助け合うことが考えられ

ます。

例えば、現在、役場では、旧校区単位における地域を住民自身が自主的に地域を運営する組織、「地域自主組織」設立するための支援策を講じています。これを活用し、私が暮らしている高麗地区では、この支援策を活用し、町内に先駆けて「ふれあいの郷かあらやま」が設立されました。まずは、こうした組織を他地区でも設立し、近隣集落との連携を図る体制を整えたうえで、世代交代についての対策を模索することが不可欠だと考えています。

まちづくりの機運と仕組みができれば

いずれにしても、「少子高齢化」、「地域の担い手の減少」への対策は、我々でも何かできるはずですが。

さらには、住民みずからまちのために行動する習慣が根を張っていないければ、いくら行政が、集落支援に関する制度を設けてもその効果には限界があります。裏を返せば、地域の住民自身で「住みよいまち」をつくらうという機運と仕組みを整えることができれば、行政等が行う支援策は「何をやっても有益なものになる」と、この祭りを通じて感じました。

◆問い合わせ先

企画情報課未来づくり戦略室
☎08559・54・5202